

平成21年度第2回屋久島世界遺産地域科学委員会における主な意見

1 現在における世界遺産としての屋久島の確認

- ≫ 遺産地域の特異な生態系とすぐれた自然景観として、スギ等のほか、日本の南に位置する高層湿原があげられる。
- ≫ スギの原生林は、樹齢、樹高とともに非常に高く、非常にまとまった規模で残っていることから、その景観は、例えば、カルフォルニアのセコイアデンドロンの林とかに匹敵するような価値があると言える。
- ≫ 世界遺産委員会への第2次定期報告に当たっては、2つのクライテリアとして認められている価値を適切に維持管理していることについて報告することが必要である。
- ≫ 世界遺産として認められた価値を守っていくことを当面の目標として、平成24年に予定されている世界遺産委員会への定期報告に向けて、屋久島世界遺産地域管理計画を見直し、現在の遺産地域を適切に管理していくことを本委員会の最優先課題としたい。
- ≫ 本委員会では、世界遺産としての屋久島の価値をいかに守っていくかについて議論することとしたい。
- ≫ 屋久島には世界遺産としての価値のほかにも、世界に誇れるすぐれた自然環境があり、これらについて積極的に情報発信していくことが必要である。
- ≫ 遺産地域を含む屋久島の自然は、人々の長年の生活の上に成り立っていることを忘れてはならない。
- ≫ 屋久島には遺産地域に組み込まれている西部地域のほかにも、海岸部から山頂部までの間に特異な生態系等が連続している地域がある。

2 屋久島世界遺産地域管理計画の基本方針に盛り込む事項について

(1) 管理の目標

- ・ ヤクシカについては能動的管理が必要と考える。
- ・ 高層湿原では登山者やヤクシカによる植生被害が見られることから、能動的管理が必要と考える。
- ・ 森林については、適切な管理区分による管理が必要である。

(2) 管理に当たって必要な視点

- ・ 管理計画の策定等には、実質的な地域住民の参加という視点が必要と考える。
- ・ 地域住民の意見について、吸い上げるだけでなく、行政側から積極的に情報開示により、双方向の関係をつくることが大切である。
- ・ エコツーリズムは持続可能なツーリズムでなければならない。また、レクリエーションや観光等の利用には、持続性という観点を盛り込むべき。
- ・ 遺産地域における気候変動の影響に関するモニタリングについては、簡単にできるものではないということ踏まえるべき。
- ・ 「人間と生物圏(MAB)計画」と世界遺産の考えは一致するものではないが、屋久島の場合、生物圏保存地域と遺産地域の大部分が重複しており、基本方針の内容についてはこのことを踏まえたものとすべき。
- ・ ヤクシカは遺産地域の境界とは関係なく移動しており、遺産地域の管理に当たっては、このことを踏まえることが必要である。
- ・ 屋久島のスギ天然林は、伐採という人為的攪乱によっても成立していることについて、管理に当たって必要な視点として盛り込むべき。
- ・ 森林から享受してきたものは、スギだけではなく、島民は以前、食料としてヤクシカを狩猟するなどしてきた。
- ・ 里山に近い森林や人工林などについては持続的に利用していくという視点を取り入れるべき。
- ・ 生物多様性など、世界遺産として認められているクライテリア以外の屋久島の価値についても、管理に当たっては必要な視点に盛り込み、情報発信していくべき。

(3) その他（管理の方策）

- ・ モニタリングの実施に当たっては、市民主体による活動との連携も重要である。
- ・ 順応的管理を進めるに当たっては、まずは遺産地域としての管理目標について議論が必要である。